

～進路目標～

- 1、欠席日数を少なくし、全科目しっかり勉強して、評定平均値をあげる。
- 2、積極的に学校や予備校の講習に参加し、勉強の習慣を身につける。
- 3、オープンキャンパス（HPで確認）に参加して、学校の中身を知り、過去問を解いていく。
- 4、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、大学入学共通テスト等、受験の機会を増やし難関校へ挑戦する。

① 入試制度について 【プリントNo. 2 参照】

2021 年度入試より、入試区分が変わりました。

名称		変更後	内容
AO 入試	→	総合型選抜	<u>専願</u> 。 志願者の表現能力や意欲などの評価を重視する選抜方法。
推薦入試	→	学校推薦型 選抜	公募制推薦...大学が示す基準を満たせば誰でも受けられる推薦選抜。 指定校推薦... <u>専願</u> 。 大学が高校や成績、募集人数などを指定する推薦選抜。
一般入試	→	一般選抜	各大学独自の試験問題で行われる選抜と、大学入学共通テストの結果を使う大学入学共通テスト利用選抜がある。

入試別日程

方法	月	8	9	10	11	12	1	2	3
総合型選抜			出願	試験	合格発表	～			
学校推薦型選抜					出願	試験	合格発表	～	
一般選抜				出願 共通テスト			共通テスト	出願	2次試験 合格発表

・「共通テスト利用」では、基本的に共通テスト後の出願になる。

・「学校推薦型選抜」や「総合型選抜」でも利用する場合あり

一般選抜学校種別日程

方法	月	7	～	1	2	3
国立大学		選抜要項発表		共通テスト	2次試験出願 前期試験	合格発表 ～ 後期試験 合格発表
公立大学						中期試験 合格発表
私立大学				一般選抜出願 一般選抜（2月） 一般選抜（3月） 合格発表～		

総合型選抜

専願制（＝合格すれば必ず入学する）。第1志望の時だけ受験する。

- ・「書類・論文重視型」→1次選考：書類や論文など2次選考：面接や学力検査など
- ・「対話重視型」→オープンキャンパスや説明会に参加後エントリーし、面接などで選考

※大学・学校によって異なるので、要確認。 出願が早く、11月頃に初年度納付金が100万円前後必要。

学校推薦型選抜（公募制推薦）

- ・併願できる学校も増えてきているが、専願としている学校もあるため要確認。

1. 「一般推薦」→学力検査＋調査書（学校成績）

成績基準が設けられることが多く、募集定員が比較的多い選抜。

1～2教科で受験の場合が多い。

2. 「特別推薦」→学力検査＋調査書（学校成績）＋課外活動・資格点数

スポーツや文化活動での優秀な成績、委員会活動やボランティア、地域活動、資格取得などに取り組んだことをアピールできる選抜。

※大学・学校によって異なるので、要確認。 12月頃に初年度納付金が100万円前後必要になる。

学校推薦型選抜（指定校推薦）【進路の手引き P19 ～】【プリントNo. 3 参照】

専願制。

- ・アドミッションポリシーなどをしっかりと読み、自分に合った大学か調べておく。
- ・3年間の欠席日数が10日以内の者が、第1次選考に応募できる。
- ・校内選考では、評定平均値の高い者が有利。入学金等の納入締切が早い。
- ・公募制推薦と比べて、評定平均値の基準は高く設定されている。
- ・大学・学部によっては、教科の評定平均の条件や履修の規定もあるので注意する。
- ・高大接続改革に伴い、面接のみではなく、学力検査や小論文が課される学校もある。

8月26日（月）一覧を公開、27日（火）指定校受験希望者対象説明会

大学入学共通テスト【進路の手引き P18】

日程：2025年1月18日（土）・19日（日）

共通テストを課す国公立大学の受験希望者は必ず受ける。2教科以下と3教科以上の受験が選べる。

私学の大学入学共通テスト利用受験に使用（受験料が安く現地まで受験に行く必要がない）

9月9日（月）大学入学共通テスト説明会（学校から一括出願する）

一般選抜

国公立大学と私立大学では、入試方法や科目数、金銭面でも大きく異なる。併願。

[国公立大学]・大学入学共通テストの受験が必須になる。

- ・2次（個別）試験は前期（・中期）・後期がある。

[私立大学]・大学独自の試験問題で行われる選抜と、大学入学共通テストの結果を使う選抜がある。

- ・ひとつの大学・学部・学科に複数の受験方式が存在するが多い。
- ・受験科目としては3科目が多い。

② 志望校の決定【プリントNo. 4 参照】

- ・ 学校案内を熟読し、受験しようとする学部で、どんな勉強ができるかよく知っておく。
- ・ オープンキャンパスに参加し、学校の雰囲気や交通の便、興味のある学部を確認しておく。
- ・ **チャレンジ校、実力相応校、すべり止め校を、よく家庭で話し合って決めておく。**
- ・ **自身の実力を知るためには、外部模試を受験する。（7月27日(土)河合塾全統共通テスト模試）** 4月実施の「実力診断テスト」は、三者懇談の時期に返却予定。第2回は、8月28日(水)を予定。

③ 勉強の仕方【プリントNo. 5 参照】

- ・ 3年生の授業は、受験を意識した科目設定が多い。
⇒ 予習、復習を怠らず、放課後講習、夏期講習に参加する。
教室や学校の図書室を活用して、昼休みや放課後に勉強する。（予備校、塾の自習室、市立図書館なども積極的に活用する。）
- ・ 目指す学校の過去問題（赤本）を何度も解いて、出題傾向を知り、慣れておく。
分からないことは、担当教師に質問に行く。

* 学校及びご家庭では

- ・ 2、3月の一般選抜まで励まし、支え、しっかり勉強させて粘り強く受験に向かわせる。
- ・ 受験モードを作って、周囲のみんなで受験生を支える。

* 今の段階では、受験科目を2科目以下に絞らないで勉強を続ける。 → 受験できる学校が広がる。

④ 入学金、授業料の準備（保護者）【進路の手引き P 22～23 参照】【プリントNo. 6 参照】

A、奨学金——日本学生支援機構大学予約奨学金（貸与型、給付型）

お金が振り込まれるのは、入学後の5月頃

B、入学資金貸付——国の教育ローン、労金のつなぎ融資

市町村独自の入学援助金（市町村の窓口で相談—相談日は週1回の所が多い）

今後の入試について

A、第1志望でない限りは、オープンキャンパスや入試説明会で、安易に決めてしまわないように。

⇒ 人気のない学部などでは、学生数確保の狙いがある（特に専門学校）。

B、周囲の進路決定情報に惑わされ浮き足だってしまうように、しっかり自分の志望校を目指す。

⇒ 難関校（関大、同志社、近大）ほど、一般入試で合格している。

C、看護・医療系では、大学・短大・専門学校など幅広く考える。

医療系大学の初年度学費…170万円～250万円程度 / 文系大学の初年度学費…100万円～130万円程度

D、資格が取れることだけにこだわって学校・学部を選ばない。

大学のカリキュラム、就職先などの情報もよく調べておくこと。

E、進路情報は1、2年で変わる。

合格可能性は外部模試を受けて確認する。【プリントNo. 4 参照】

F、スカラシップ制度を上手に利用する。

（例）阪南大学

1. 入試成績優秀者（特待生）奨学金

- ・ 一般選抜において、成績優秀者（得点率80%以上）は、授業料半額もしくは全額。
- ・ 大学入学共通テスト利用において、成績優秀者（得点率75%以上）は授業料半額もしくは全額。

2. 指定資格取得者奨学金

- ・ 総合型選抜などの専願制入試合格者は、漢検2級などの資格を入学までに取得しておくとし10万円を給付。

G、志望校の情報をしっかり集める

- ・ 大学や試験日程によって、受験料の割引や試験科目が異なること（奈良学園大学、阪南大学など）があるので、志望校の入学試験要項を熟読しておく。
- ・ 外部検定試験などを利用できる場合もある。

（例）近畿大学

1. 外部試験利用制度

対象学部：法、経済、経営、文芸（※日本文学専攻を除く）、総合社会、国際、理工、建築、薬（※医療薬学科を除く）、農、生物理工、工、産業理工の13学部

対象方式：推薦入試（スタンダード方式・高得点科目重視方式）

内容：英検2級でみなし得点70点、準1級でみなし得点100点など

2. 情報学部独自方式

「数学」1科目で合否判定 など